

保育学生による地域子育て支援の取り組み —2022年度活動報告—

**A Community Parenting Support Program by Students in Early Childcare Practical
Training School: A Report of the Activity 2022**

山下 世史佳 ・ 松本 希
土田 耕司 ・ 六車 美加
柴川 敏之 ・ 鎌田 雅史
荊木 まき子 ・ 三好 年江
小谷 彰吾 ・ ズビャーギナ 章子

保育学生による地域子育て支援の取り組み

—2022年度活動報告—

A Community Parenting Support Program by Students in Early Childcare
Practical Training School: A Report of the Activity 2022

山下 世史佳 (幼児教育学科)・松本 希 (幼児教育学科)

YAMASHITA Yoshika

MATSUMOTO Nozomi

土田 耕司 (幼児教育学科)・六車 美加 (幼児教育学科)

TODA Koji

MUGURUMA Mika

柴川 敏之 (幼児教育学科)・鎌田 雅史 (幼児教育学科)

SHIBAKAWA Toshiyuki

KAMADA Masafumi

荊木 まき子 (幼児教育学科)・三好 年江 (幼児教育学科)

IBARAKI Makiko

MIYOSHI Toshie

小谷 彰吾 (幼児教育学科)・ズビヤーギナ章子 (幼児教育学科)

KOTANI Shogo

ZVYAGINA Akiko

キーワード：子育て支援, GBA, 保育学生, 就実やんちゃキッズ,

就実やんちゃキッズ YouTube

本学幼児教育学科では、子育て支援を目的とした学生ボランティアグループGBA (Girls and Boys Be Ambitious の略、以降GBAと記す。)を結成し、2022年度で17年目を迎えた。GBAの主な活動は、「就実やんちゃキッズ ～きてみてあそぼうでえ～」の開催であり、2021年度を除く、過去15年間の取り組みについては既に報告済みである^{1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) 8) 9) 10) 11) 12) 13) 14) 15) 16)}。2020年、2021年は新型コロナウイルス感染症の流行により、対面での実施を自粛せざるを得なかったことから、2022年3月からは新たな試みとして、就実大学・就実短期大学のオフィシャルYouTubeチャンネル「就実ch」より、学生が中心となって作成した動画の配信を始めた。

2019年度のGBAの活動報告では、対面での活動を想定した今後の課題として、①学生の主体性の確保とそれに伴う活動の質の安定化、②全ての引率者が子どもと一緒に参加しやすい環境づくりの2点を挙げた。しかしながら、2020年度以降新型コロナウイルス感染症の流行により学生や子育て支援を取り巻く環境は大きく変わった。それぞれの課題について、現状に合った説明を加えておく。

第一の課題「学生の主体性の確保とそれに伴う活動の質の安定化」については、就実やんちゃキッズを主催するG B A（ぐば）や中四（ちゅうし）¹が短期大学幼児教育学科の学生有志による任意団体であるため、限られた2年間の学生生活の中で、運営方法を理解し公演活動を充実させ、それらを後輩に引き継いでいくことの難しさとそれを補助するための教員への負担を軽減させることである。

2019年度の開催以降、2年間対面での開催を自粛したことにより、就実やんちゃキッズの対面開催を経験した学生が現役学生の中におらず、本年度対面開催を実施するにあたり、教員が運営や形態を一から伝えなければならないという面で、教員への負担は増大し、新たな開催方法の模索が必要となった。

第二の課題「全ての引率者が子どもと一緒に参加しやすい環境づくり」については、継続的な課題として2019年度まで例年改善を試みている。2019年度まで来場の制限がなく平均して200名以上の参加者があったことから、隅々まで目を届かせることを課題とし、『地域の子育て支援』という原点に立ち、すべての引率者が子どもと一緒に安心して参加しやすい環境づくりに力を入れてきた。来場者に対して、目配り心配りをして寄り添う態度を身に付けることは、将来社会人となる学生にとっては重要なホスピタリティ力となる。

本報告は、上記の課題解決を念頭におき、新型コロナウイルス感染症対策に配慮して行った2022年度の地域子育て支援の取り組みについて、「就実やんちゃキッズ ～きてみてあそぼうでえ～」と「就実やんちゃキッズ YouTube」の経過及び結果をまとめたものである。

1 保育学生による地域子育て支援の取り組み

1) 「就実やんちゃキッズ ～きてみてあそぼうでえ～」活動内容

地域貢献および教育活動の一環として実施してきた「就実やんちゃキッズ ～きてみてあそぼうでえ～」は、本年度、新型コロナウイルス感染症での自粛期間を経て3年ぶりに開催した。新型コロナウイルス感染症対策を講じるため、規模を縮小して3歳未満児とその保護者各日10組を対象に、本学のE館模擬保育室101教室で開催した。幼児教育学科2年生は実習中であったため、今回は1年生のG B Aメンバーのみの参加となった。学生は授業の合間を縫って定期的に開催準備を行った。

これまでのプログラムは前半と後半に分かれており、プログラム前半は、パネルシアター・リズム体操・オペレッタ・手遊び、プログラム後半は、様々な遊びを行うことのできる「交流広場」となっている。本年度は、開催時間を午前10時～11時の1時間に限定し、プログラム前半は、パネルシアター・リズム体操・手遊び2曲に絞った。具体的な公演演目や参加人数については表1を、活動の様子については図1を参照されたい。本年度は2月6日・7日にも対面開催予定である。

¹ 中四とは、中・四国保育学生研究大会のことで、中国・四国地区にある保育士を養成している大学・短大・専門学校などの学生が、日頃の研究成果を発表する大会である。

これまでのG B Aは、本学幼児教育学科の有志団体という特質上、活動を安定的に継続するために、会計業務や、他部局との折衝や調整、広報活動等に関しては教員が分担していた。その一方で、G B Aは有志の学生の任意団体であるという理念があり、プログラム作成や練習、準備、リハーサル、当日の運営、振り返りなど、主要な活動に関しては学生が主体的に行い、教員は助言者や支援者として位置づけられてきた。しかし、本年度は前述のように3年間のブランクがあることで学生の中に経験者がいないため、教員が運営について詳細に学生へ説明するという手順が加わった。

表1 「就実やんちゃキッズ ～きてみてあそぼうでえ～」 活動内容

日 時	公 演 演 目	参加人数	学生数
第1回 9月13日	パネルシアター 「いぬのおまわりさん」 リズム体操 「エビカニクス」 * 幕間に手遊び、公演後交流広場	大人 8人 子ども 11人	25人
第2回 9月14日	パネルシアター 「いぬのおまわりさん」 リズム体操 「エビカニクス」 * 幕間に手遊び、公演後交流広場	大人 7人 子ども 11人	22人



パネルシアター



リズム体操



交流広場（ダンボールハウス）

図1 就実やんちゃキッズの活動の様子

これまでの活動では、就実やんちゃキッズの12日前までに、公演のパートリーダーの学生が中心となって演目を決定し、教員に知らせ、教員は学生からの連絡に基づき、関係部局に広報を依頼し、本学科のHPにおいて告知を行っていた。今回は学生が初めて就実やんちゃキッズを経験するので、教員の補助のもとで学生ミーティングを2022年5月と7月に開催して演目を決定後、学生主体で演目の準備を行った。

学生は、8月中には各演目の担当者ごとに練習し、9月7日に会場となるE館模擬保育室101教室で、本番のリハーサルと当日に向けたミーティングを開いた。ミーティングにはG B A担当教員が参加し、公演における表現方法等に関する実技指導やプログラム後半の交流広場における安全管理等について適宜助言をした。リハーサルやミーティングの進行については、G B Aのリーダー達が司会を務め、準備の確認やプログラムの改善を諮った。

2) 保護者アンケートの方法と結果

(1) 参加保護者へのアンケートの方法

9月13日・14日に開催された「就実やんちゃキッズ ～きてみてあそぼうでえ～」におい

て、参加者に対してプログラムとアンケート用紙を受付時に配布し終了時に回収した。アンケートでは、①子どもの年齢、②子どもとの続柄、③就実やんちゃキッズのプログラム内容に関する意見、④今後の参加意思、⑤就実やんちゃキッズをどのように知ったかについて尋ねた。回収されたアンケートの総数は15件であった（母親が回答したものが14件、夫婦で回答したものが1件であった）。

(2) アンケートの各項目の集計

①子どもの年齢

1世帯辺りの子どもの参加人数は、全世帯15件のうち、40.0%（6件）が1人、60.0%（9件）が2人であった。総数は23人となっており、年齢の分布は表2の通りである。2歳以上3歳未満の子どもが43.5%と半数近くであった。新型コロナウイルス感染症の流行以前に開催していた就実やんちゃキッズにおいても、3歳未満の子どもたちの参加が多かった（例えば、過去の3歳未満児の参加割合は、2018年度 56.1%、2019年度 54.5%）。以上から、低年齢児を意識したプログラム構成や、安全管理など、子どもたちやその保護者たちが快適に参加して楽しむことのできる配慮を工夫していく必要性が認められる。

表2 参加した子どもの年齢

	第1子		第2子		合計	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
1歳未満	0	0.00	7	30.4	7	30.4
1歳以上 2歳未満	4	17.4	2	8.7	6	26.1
2歳以上 3歳未満	10	43.5	0	0	10	43.5
合計	14	60.9	9	39.1	23	100.0

②子どもとの続柄

アンケート記入者と子どもの関係について、回答者の多くは母親であり14名（93.75%）、父親は1名（6.25%）のみであった。本年度は感染予防対策として少人数予約制とし、平日開催にしたことなどが関係していると考えられる。子育て支援を充実するために、父親が気軽に子どもと立ち寄れる広報や工夫を考える必要もある。

③就実やんちゃキッズのプログラムの内容に関する意見

i) プログラムの長さ

本年度の就実やんちゃキッズは、新型コロナウイルス感染症の流行以前のプログラムを90分から60分に縮小して実施した。プログラムの長さについて、参加者の印象を図2に示す。参加者の93.00%がちょうどよいと答えており、プログラムの長さは適切であることが示された。

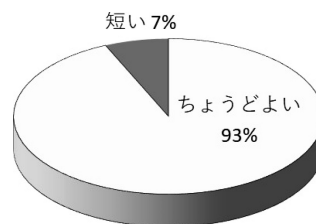


図2 プログラムの長さ

ii) 特によかったと思うプログラム

よかったと思うプログラムについて、保護者自身と子どもが喜んだものの回答を求めた(複数回答可)。保護者と子どもが選んだプログラムを表3に示す。

保護者は、リズム体操、交流広場の順に選択数が多く、子どもは、交流広場、リズム体操の順によかったと回答する割合が多かった。保護者も子どもも体を動かす遊びに対する満足度が高いことが示された。

表3 特によかった・子どもが喜んだと思うプログラム

	手遊び	パネルシアター	リズム体操	交流広場	その他	無回答
保護者による選択数	12	11	14	13	1	0
(%)	80.0	73.3	93.3	86.7	6.7	0
子どもによる選択数	2	2	7	11	0	4
(%)	13.3	13.3	46.7	73.3	0	26.7

iii) 自由記述アンケートの回答

交流広場に関してどのコーナーがよかったかを尋ねたところ、保護者子どもともに新聞シャワーや段ボールハウスに関する満足度が高いことが示された(表4)。

交流広場の各コーナーについてどのような点がよかったかに関する自由記述について、全体を俯瞰する目的で、キーワードを抽出しカテゴリー化を試みた。「子どもがどんなところを喜んだか」について自由記述による回答を求め、内容分析を行った。参加者の記述から14の内容が抽出され、分析の結果、【遊び環境】【学生の関わり】【出し物】等、3つのカテゴリーに分類された。抽出されたカテゴリーと、具体的な内容を表5に示す。

【遊び環境】については、〔非日常的な遊び〕〔沢山の遊び〕〔赤ちゃんコーナー〕に関する記述が見られた。「いつもとは違うおもちゃで遊べて集中していた」や「家ではできないダイナミックな遊び」等、〔非日常的な遊び〕を喜んでいて。また、「いろんなブースがありあきずに楽しんだ」と〔沢山の遊び〕があったことや、「まだ動けない赤ちゃんなので赤ちゃんコーナーは喜んで遊んでいた」と発達に考慮した〔赤ちゃんコーナー〕についても、子どもの様子から読み取り喜んだこととしてあげられていた。【学生の関わり】については、〔声かけ〕〔遊び相手〕〔見守り〕に関する記述が見られた。子どもは、「お姉さん、お兄さんが声をかけてくれたこと」「魚が釣れた時にみんなが手をたたいてほめてもらえたこと」等、学生の〔声かけ〕や「学生さんがシャワーをしてくれたこと」等、〔遊び相手〕になってくれたことを喜んでいて。また、「やさしく見守ってくれた」と積極的な関わりだけでなく、学生の〔見守り〕についても喜んでることがわかった。【出し物】については、〔ダンス〕に関する記述が見られた。「ダンスがノリノリでたのしそうだった」と、親が子どもの様子から心情を読み取り、〔ダンス〕を喜んでいと回答していた。

以上のように、子どもが安心して楽しく遊ぶことのできる環境面に関する配慮についてだけでなく、学生の声かけや子育て世帯との関わり、見守りなど、温かな関わりに関しても

好意的な意見が寄せられた。

表4 特によかった・子どもが喜んだと思う交流広場の内容（自由記述）

	新聞シャワー	さかなつり	段ボールハウス	赤ちゃんコーナー
保護者に関する記述数	4	2	3	0
子どもに関する記述数	3	2	3	1

表5 交流広場のどのような点がよかったか（自由記述）

大カテゴリー	小カテゴリー	具体的な内容
遊び環境 (8)	非日常的な遊び	普段なかなか遊べない環境, おもちゃ
		いつもとは違うおもちゃで遊べて集中していた
		沢山の新聞紙で遊ぶこと
		家ではできないダイナミックな遊び
	沢山の遊び	新聞紙シャワー, さかなつり, たこやきやさん
		仕掛けが沢山
		いろんなブースがありあきずに楽しんだ
赤ちゃんコーナー	まだ動けない赤ちゃんなので赤ちゃんコーナーは喜んで遊んでいた	
学生の関り (5)	声かけ	お姉さん, お兄さんが声をかけてくれたこと
		魚が釣れた時にみんなが手をたたいてほめてもらったこと
	遊び相手	学生さんがシャワーをしてくれたこと
		やさしいお姉さんたちにたくさん遊んでもらえたこと
見守り	やさしく見守ってくれたこと	
出し物 (1)	ダンス	ダンスがノリノリでたのしそうだった

④プログラムに対する評価

i) 次回の参加意思

保護者に対して「次日も参加したいと思いますか?」と尋ねた結果、「思う」と答えた参加者が73%であり、「無回答」が27%、「思わない」と回答した参加者はいなかった。本年度の試みは比較的好意的に受け止められていると考えられる。

ii) プログラム全体を通しての意見や要望（自由記述）

プログラムに参加しての意見や要望に関する自由記述について全体を俯瞰する目的で、回答のカテゴリー化を試みた（表6）。参加者の記述から28の内容が抽出され、分析の結果、【学生の姿】【環境】【プログラム】【親の子育て支援】等4つのカテゴリーに分類された。

【学生の姿】については、〔表情〕〔関わり〕〔声かけ〕〔姿勢〕に関する記述が抽出された。参加者は、学生の「温かい笑顔」「楽しそうな表情」等、学生の〔表情〕や、「子どもと積極的に関わってくれて子どもが楽しそうだった」「寄り添ってくれたこと」等、学生の〔子どもへの関わり〕に良い印象を持っていた。また、「みなさんが声かけをしてくださり、息子もとっても楽しそうでした」「学生の皆さんがやさしく声をかけてくれて片付けもあそびになっていた」等、学生の〔声かけ〕や、「盛り上げてくれたこと」、「一生懸命取り組んでくれたこと」

等、学生の「取り組む姿勢」そのものに良い印象を持っていることがわかった。【環境】については、〔交流広場〕〔段ボールハウス〕に関する記述が抽出された。参加者は、「いつもとは違う環境」や「家ではできない大掛かりな遊び」等、非日常的な遊びができた〔交流広場〕そのものを良かった点、印象に残った点としてあげていた。また、「たのしいしかげばかりで魅力的でした」や「小屋がすごい」等、〔段ボールハウス〕についても同様であった。【プログラム】については、〔参加型〕〔観賞型〕に関する記述が抽出された。「手遊び」や「いっしょに体を動かす遊び」等、〔参加型〕や「パネルシアター」の〔観賞型〕も良い印象として残っていることがわかった。【親の子育て支援】については、〔親の気分転換〕〔子どもの変容〕に関する記述が抽出された。「私自身も娘から離れて、いい気分転換になった」と、〔親の気分転換〕が図られており、そのことを良かった点としてあげていた。また、「人見知りの娘だったが、初めて私から離れて遊んでくれた」と〔子どもの変容〕についての記述も見られた。

全体として、スタッフ（学生および教員）に対しての開催・準備に関する感謝や労い、子どもとの関わりに関するお礼や学生への激励など好意的な感想や、プログラムに楽しく参加する子ども達の様子に関する記述など、好意的な感想が多く含まれていた。さらに、就実やんちゃキッズに参加することによって、良い気分転換になった、子どもが学生と楽しく過ごす姿を見て成長を感じたなどといった感想も寄せられ、子育て支援事業としての活動の手ごたえも見取ることができた。以上の記述より、新型コロナウイルス感染症予防対策を行いながらの限定的な開催ではあったが、本活動は地域の子育て支援事業として有意義であったと考えられる。

表6 プログラム全体を通しての意見・要望

大カテゴリー	小カテゴリー	具体的な内容
学生の姿 (12)	表情	温かい笑顔で見守ったり
		ずっと学生さんが笑顔で迎えてくれた
		楽しそうな表情
	子どもへの関わり	おねえさんたちが遊んでくれたので、娘も私もとてもうれしかった
		お姉さん達と遊ぶのがとてもうれしかったようだ
		学生さんや先生方が子どもと積極的に関わってくれて子どもが楽しそうだった
		笑顔で寄り添ってくださったことが印象的だった
		優しく寄り添ってくださりありがとうございました
	声かけ	どこで遊んでも学生のみなさんが声かけをしてくださり息子もとっても楽しそうだった
		学生の皆さんやさしく声をかけてくれて片付けもあそびになっ ていて素敵だった
	姿勢	盛り上げて下さり緊張がとけて喜んでいた
		学生さんが一生懸命取り組んでくれていてよかった
環境 (7)	交流広場	いつもとは違う環境
		家ではできない大掛かりな遊び
		赤ちゃんにもしげきがあるところが良かった

	段ボールハウス	小屋がすごい
		たこやきやさんがたのしかったみたいだ
		たのしいしかけばかりで魅力的だった
		家の仕掛けによるこんでいて、いつまでも楽しめる
プログラム (5)	参加型	一緒に体を動かさせて遊べたところ
		音楽や手遊び等
		エビカニックス好き
	観賞型	パネルシアターは真剣に見入っていた
		パネルシアターなどのプログラム
親の子育て支援 (3)	親の気分転換	私自身も娘から離れて、いい気分転換になった
	子どもの変容	お姉さんたちが親しみやすかったみたいで人見知りの娘だったが、初めて私から離れて遊んでくれた 本当ありがとうございます
		交流広場では人見知りの娘も楽しそうに喜んでくれた
その他： 要望 (1)		もっと頻繁にあるといいなあと思う

⑤就実やんちゃキッズをどのように知ったか

本年度は、人数を制限しての予約制とした小規模開催であったために、新型コロナウイルス感染症の流行以前とは異なる広報を行った。本年度の参加者に対して、就実やんちゃキッズをどのように知ったか尋ねた結果を集計したところ、最も多かったのはチラシ (46.67%) を見ての参加であった (表7)。

表7 就実やんちゃキッズをどのように知ったかについて

	ホームページ	ポスター	チラシ	知人	就実の関係者	その他	無回答
人数 (人)	0	2	7	2	1	0	4
割合 (%)	0	13.3	46.7	13.3	6.7	0	26.7

3) 学生アンケートの方法と結果

(1) 学生の振り返りのためのアンケートの方法

9月13日・14日の両日とも就実やんちゃキッズ終了後の反省会の時間に、学生にアンケート用紙を配布し回収した。本アンケート調査は、学生自身が活動を振り返り、さらに問題点を抽出し、次回以降の就実やんちゃキッズに活かすきっかけとすることを目的にしている。

質問紙は公演について振り返り (11項目)、交流広場 (子どもとのふれあい) に関する振り返り (10項目)、全体に関する満足度の振り返り (2項目) の項目から構成されている。各項目について「できた (5点)」「少しできた (4点)」「どちらでもない (3点)」「あまりできなかった (2点)」「できなかった (1点)」の5件法にて回答を求めている。各回でアンケートに回答した学生数は、9月13日 (25名)、14日 (22名) であった。両日とも参加した学生は11名であった。

(2) アンケート各項目に関する集計

i) 調査項目の記述統計量

質問項目の集約と今後の改善を目的に、アンケートの各項目に関する、平均値、標準偏差、1変量のt検定における標本平均の推定値(95%信頼区間)について表8に示す。

表8は、公演、交流広場ごとに学生の自己評価が高かった順に記載している。公演、交流広場に関する自己評価は概ね高得点であり学生の手ごたえが伺える。本年度の就実やんちゃキッズは3年ぶりの開催であり、以前とは異なる開催方法であったためすべての学生にとって初めての体験であった。また、感染予防対策を意識しながらの実施だったため、従前よりも入念に準備を行ってきた。また、学生にとっても新鮮な活動であったと推察される。

平均値の95%信頼区間の上限が4【少しできた】に満たない項目は、今後改善していく余地を示唆するものであると考えられる。具体的には、公演部では「自分自身で創意工夫した(M=3.7, SD=0.5)」, 交流広場については、「保護者と積極的に交流できた(M=3.7, SD=1.1)」である。特に、保護者との交流については、標準偏差が大きく個人差の大きさが認められる。これらの項目については、学生自身が経験を重ねることにより成長が期待できる。特に本年度は実習等や子どもと関わった経験の少ない1年生を主体に社会的な制限のあるなかでの限定的な開催となったが、学生が見通しと自信をもって活動できるようにするためにも、少しずつ新型コロナウイルス感染症の流行以前の体制を整備していくことの重要性が示唆された。参加した学生の満足度は高く(M=4.7, SD=0.7)、学生の活躍の場としても、本活動は有意義なものであったと考えられる。

表8 調査項目の記述統計および一変量のt検定における95%信頼区間の推定(N=47)

変数名	平均値	標準偏差	信頼区間		df
			95%下限	95%上限	
公演について					
意識して笑顔ができた。	4.7	0.5	4.6	4.9	46
みんなと協力することができた。	4.7	0.5	4.6	4.9	46
保育に関する技術が身についた。	4.5	0.6	4.2	4.7	46
自分の役割がきちんと果たせた。	4.5	0.7	4.3	4.7	46
積極的に活動できた。	4.4	0.9	4.1	4.7	46
事前準備・練習がよくできた。	4.2	1.0	4.0	4.4	46
新たな課題が見つかった。	4.2	0.7	3.9	4.5	46
人前で演技することが上手になった。	4.1	1.0	3.8	4.4	46
臨機応変に行動することができた。	4.0	0.9	3.8	4.3	46
自分自身で創意工夫した。	3.7	0.5	3.4	3.9	46
交流広場について					
自分も楽しく参加できた。	4.8	0.4	4.6	4.9	46
子どもと積極的に交流できた。	4.6	0.7	4.4	4.8	46
子どもについての理解が深まった。	4.5	0.6	4.3	4.7	46
子育て支援への理解が深まった。	4.4	0.6	4.3	4.6	46
新たな課題が見つかった。	4.3	0.8	4.1	4.6	45
自分に自信がもてるようになった。	4.2	0.9	3.9	4.4	46
遊びのレパートリーが増えた。	4.1	0.9	3.8	4.3	46
他人の立場や気持を読み取れるようになった。	4.1	0.7	3.9	4.3	46
保護者と積極的に交流できた。	3.7	1.1	3.4	4.0	46
全体的な満足度					
全体的に今日の活動に満足できた。	4.7	0.7	4.5	4.9	46

2. 「就実やんちゃキッズ YouTube」活動報告

2021年6月, 初の試みとして「就実やんちゃキッズ YouTube」を始動する計画が持ち上がった。前述のように新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から, 2019年以降対面開催を自粛せざるを得ず, これまでの伝統を引き継ぎながら, 感染の心配のないオンライン上でG B Aの活動を継続できないかと考え, 始動に至った。2021年7月にG B Aメンバーでミーティングを行い, 小グループに分かれ, それぞれのグループで感染対策を十分に行いながら動画を作成する流れとなった。決定後, 感染状況が悪化したことから学生同士でオンラインを活用してグループ内ミーティングを実施し, 動画の完成後, 学科全教員とG B Aメンバー全員でオンラインを活用して動画の改善点を指摘し合って動画を修正し, よりよい作品に作り変えていった。修正を繰り返し, 2022年3月, 初回の動画が公開された。動画公開にあたっては, 学科教員の他, 学内 YouTube 担当職員のチェックを経ている。グループ名, 演目, 内容, 方法, 動画時間は以下のとおりである (表9)。

表9 就実やんちゃキッズ YouTube グループの動画

グループ名	演目・内容	方法	動画時間
ピアノ	「はじまるよ・くいしんぼうゴリラ」はじまるよの手遊びをする。くいしんぼうゴリラの歌を歌いながらペープサートで演じる。	手遊び ペープサート	2分5秒
チューリップ	「うさぎとかめ」ペープサートでうさぎとかめのお話を演じる。	ペープサート	3分13秒
おりがみクラブ	「折り紙～ハロウィン～」折り紙でかぼちゃのおばけ, おばけ, こうもり, フランケンシュタインの作り方を説明する。	折り紙	4分42秒
Flower	「菌磨き」子どもに菌磨きを促すお話を演じる。	ペープサート	2分29秒
ズートピア	「ひつじさんの絵描き歌」自作の絵描き歌をオリジナルソングにのせて描く。	絵描き歌	1分18秒
キセアス	「楽しい手遊び」やきいもグーチーパー, 奈良の大仏様, スイカの名産地の手遊びをする。	手遊び	4分43秒
からあげ	「コケ子たちと遊ぼう!」キャラクターが登場, ケンケンパや色タイル踏み遊びを紹介する。	外遊びの紹介	4分
チームよい子	「猫のお医者さん」猫のお医者さん (作・歌 ケロボンズ) の劇を演じる。	ペープサート	3分51秒
シュワッチマン	「手話ダンスをしよう!」手のひらを太陽に手話ダンスをする。	手話ダンス	2分8秒
ツナマヨ	「たまごの中から ふしごなポケット」クイズを行う。紙で作った小道具を用いて歌う。	スケッチブック シアター・歌	3分5秒
サンドウィッチ	「おうちでじっけん」水に絵を通すと, 違う絵に変身する。	水を使った遊び	3分18秒
虹	「みんなで楽しく手あそびをしよう 秋 Ver.」やきいもグーチーパー, とんぼのめがね, 大きな栗の木の下での手遊びを行う。	手遊び	2分

再生数はそれぞれの動画で100回を超えており, 再生数の多い動画では700回を超えている (2022年12月現在)。作成には労力を要するが, YouTube は世界中のどこからでもアクセスできるため, 世界中の子どもやその保護者, 保育関係者に向けてオンラインを通してG B Aの活動を発信することで交流が深まる他, 参加学生が達成感を得られ, 将来, 学生が卒業し

でも過去の自分の活動を振り返る手段ともなり得るという利点がある。したがって、現在の予定では対面の就実やんちゃキッズと合わせて定期的に更新していく予定である。動画の内容は子ども向けとなっており、動画編集アプリ等を駆使して学生主体で作ったオリジナルとなっている（図3）。また、著作権については、日本音楽著作権協会（JASRAC）に確認を取り、使用の確認が必要な曲については業者に使用許可を得た上で用いている。動画は、YouTubeサイトを開き、「就実c h」または「就実やんちゃキッズ」と検索すれば、簡単に鑑賞することができる¹⁷⁾。



図3 「就実やんちゃキッズYouTube」の動画

3 おわりに

本年度をもってG B Aの活動は17年目、就実やんちゃキッズの活動は16年目を迎えた。約2年間の新型コロナウイルス感染症の流行による活動中止期間を経て、本年度の活動は、就実やんちゃキッズを小規模から再生させ、「就実やんちゃキッズ YouTube」も新たに始動させた。

ここで最初に取り上げた2つの課題について、振り返る。

まず、第一の課題である「学生の主体性の確保とそれに伴う活動の質の安定化」について、約2年間の中止期間があったため、本年度は就実やんちゃキッズ未経験の学生の主体性を引き出すことや活動の質の復元に注力したことから、学生の主体性の確保や活動の質の安定化には至らなかった。しかし、小規模ながら実際に対面で就実やんちゃキッズを実施できたことで、アンケート結果に示されたように、参加者の満足度や学生の達成感が高まり、有意義な活動となった。したがって、第一の課題はこれからも継続すべき課題となる。今後、就実やんちゃキッズの活動を継続できれば、2年間の学生生活の中で、運営方法を理解し公演活動を充実させ、後輩に引き継いでいくという流れで就実やんちゃキッズをより充実した活動へと発展させられると考える。また、新たな試みである就実やんちゃキッズ YouTubeについても、G B Aの活動の新境地となり、活動について周知できる手段の一つとなったため、この活動の継続によって学生は主体的に活動し、活動の幅も広がり、活動の質も安定化できると想定するため、この課題の継続は有効である。

第二の課題「全ての引率者が子どもと一緒に参加しやすい環境づくり」については、2年間の中止期間を経て再出発した本年度以降、改めて『地域の子育て支援』という原点に立ち、すべての引率者が子どもと一緒に安心して参加できる環境づくりに継続して取り組む必要がある。また、近年新型コロナウイルス感染症によって人との関わり合いが希薄になっている

世の中の側面を, 就実やんちゃキッズの活動を発展的に継続し, 参加者の高い満足度を維持できるような楽しく面白い参加したくなるプログラム作りや学生と子どもや保護者との関わりの充実を図ることで, 「全ての引率者が子どもと一緒に参加しやすい環境づくり」へとつなげ, 状況の改善へと歩みを進めていく。対面での就実やんちゃキッズは今後も継続的に参加してもらえような内容を構築し, 就実やんちゃキッズ YouTube は世界中の多くの子どもを含んだ視聴者の心をつかめるチャンネルにしていけるように, 教員も学生をサポートしていく方針である。

以上から, 次年度以降の課題には, ①学生の主体性の確保とそれに伴う活動の質の安定化, ②全ての引率者が子どもと一緒に参加しやすい環境づくり, ③子どもや保護者との関わりを通して参加者と視聴者の満足度を高める内容の構築を挙げる。

引用文献

- 1) 村田恵子, 澤津まり子, 立石あつ子 (2006). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—備前地域子育てキャラバン事業報告—, 就実論叢, 36 (社会篇), pp.135-152.
- 2) 澤津まり子, 永田彰子, 田中誠, 立石あつ子 (2007). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2007年度活動報告—, 就実論叢, 37 (社会篇), pp.81-98.
- 3) 澤津まり子, 堤幸一, 立石あつ子, 伊藤真, 笹倉千佳弘, 田中誠, 永田彰子, 山根薫子, Z. 山田章子 (2008). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2008年度活動報告—, 就実論叢, 38 (社会篇), pp.285-298.
- 4) 澤津まり子, 伊藤真, 堤幸一, 立石あつ子, 笹倉千佳弘, Z. 山田章子, 田中誠, 山根薫子 (2009). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2009年度活動報告—, 就実論叢, 39, pp.233-247.
- 5) 澤津まり子, 立石あつ子, 柴川敏之, 秋山真理子, 堤幸一, 笹倉千佳弘, 田中誠, 山根薫子 (2011). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2010年度活動報告—, 就実論叢, 40, pp.163-172.
- 6) 澤津まり子, 柴川敏之, 松本希, 鎌田雅史, Z. 山田章子, 秋山真理子, 笹倉千佳弘, 田中誠, 山根薫子 (2012). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2011年度活動報告—, 就実論叢, 41, pp.175-186.
- 7) 松本希, 柴川敏之, 澤津まり子, 鎌田雅史, 田中誠, 秋山真理子, Z. 山田章子, 笹倉千佳弘, 山根薫子 (2013). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2012年度活動報告—, 就実論叢, 42, pp.161-174.
- 8) 松本希, 田中誠, 澤津まり子, 鎌田雅史, 秋山真理子, 笹倉千佳弘, 柴川敏之, Z. 山田章子, 山根薫子 (2014). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2013年度活動報告—, 就実論叢, 43, pp.325-336.
- 9) 田中誠, 秋山真理子, 鎌田雅史, 蔵永瞳, 澤津まり子, 笹倉千佳弘, 柴川敏之, Z. 山

- 田章子, 松本希, 山根薫子 (2015). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2014年度活動報告一, 就実論叢, 44, pp.291-301.
- 10) 秋山真理子, 鎌田雅史, 柴川敏之, 蔵永瞳, 笹倉千佳弘, 澤津まり子, Z. 山田章子, 田中誠, 山根薫子 (2016). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2015年度活動報告一, 就実論叢, 45, pp.209-223.
- 11) ズビャーギナ山田章子, 鎌田雅史, 松本希, 伊藤優, 荊木まき子, 笹倉千佳弘, 柴川敏行, 秋山真理子, 澤津まり子, 田中誠 (2017). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2016年度活動報告一, 就実論叢, 46, pp.187-198.
- 12) ズビャーギナ山田章子, 鎌田雅史, 松本希, 伊藤優, 荊木まき子, 笹倉千佳弘, 柴川敏行, 秋山真理子, 澤津まり子, 田中誠 (2018). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2017年度活動報告一, 就実論叢, 47, pp.199-210.
- 13) 荊木まき子, 鎌田雅史, 松本希, ズビャーギナ章子, 小谷彰吾, 土田耕司, 伊藤優, 秋山真理子, 柴川敏之, 澤津まり子 (2019). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2018年度活動報告一, 就実論叢, 48, pp.173-186.
- 14) 土田耕司, 鎌田雅史, 小谷彰吾, 荊木まき子, ズビャーギナ章子, 松本希, 柴川敏之, 池田明子, 秋山真理子, 澤津まり子 (2020). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—2019年度活動報告一, 就実論叢, 49, pp.99-110.
- 15) 澤津まり子, 松本希, 土田耕司, 鎌田雅史, 柴川敏之, ズビャーギナ章子, 荊木まき子, 小谷彰吾, 山下世史佳, 池田明子 (2021). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—立ち上げから今までの活動内容を中心に—, 就実論叢, 50, pp.123-140.
- 16) 松本希, 鎌田雅史, 土田耕司, 荊木まき子, 小谷彰吾, 柴川敏之, ズビャーギナ章子, 池田明子, 山下世史佳, 澤津まり子, (2021). 保育学生による地域子育て支援の取り組み—立ち上げから今までの成果と課題—, 就実教育実践研究, 14, pp.131-144.
- 17) 就実やんちゃキッズ YouTube https://www.youtube.com/results?search_query=%E5%B0%B1%E5%AE%9F%E3%82%84%E3%82%93%E3%81%A1%E3%82%83%E3%82%AD%E3%83%83%E3%82%BA (2022年9月28日取得)